

内田良平 うちだらへい 國家主義運動家。明治七年二月十一日福岡縣生れ。昭和十一年七月二十六日没（八七—一九三七）。幼名良助、甲。別名内田甲、清水進。號居候堂主人、硬石、黑龍瀨人。と洋社社長平岡浩太郎の甥。東洋語學校卒。朝鮮に渡り、天佐依の一買として活動。シムリに軍獨横斷ののち、明治三十四年黑龍會を組織して日露開戦を主唱。戦後韓國統監府囑託となり、おた朝鮮同志會を結成して日韓合邦運動を展開した。昭和八年大日本生産黨を創す。

著書 『聖訓講解』（昭和二年七月二十一日黑龍會出版部）、『居候堂歌集』（昭和五年八月十五日黑龍會出版部）、『滿蒙の獨立と世界紅十字會の活動』（昭和六年十一月十八日先進社）、遺稿 『歌後』—黑龍瀨人歌集後篇』（葛生能久編、昭和十一年十月二日黑龍會出版部）、

『硬石』五十年譜—内田良平自伝』（西尾陽太郎解説、昭和五十一年十月二日福岡・葦書房）等。初瀬龍平著『伝統的右翼内田良平の研究』（昭和五十五年九月十日福岡・九州大学出版会「北九州大学法政叢書」）

刊。

